

## PRAEVIDENTIA DAILY (7月24日)

## 昨日までの世界：豪ドル高・ポンド安・NZドル安

昨日は、豪 2QCPI 統計のうち、コア CPI (刈込平均) が前年比+2.9%と、前期および市場予想を上回り RBA のインフレ目標上限 (3.0%) に接近したことから、豪ドルが大きく上昇、対米ドルで一時 0.9462 ドルと、7 月初の年初来高値 (0.9505 ドル) に迫る水準となったのが特徴的だった。但し、総合 CPI は前年比+3.0%、もう一つのコア CPI である加重中央値は+2.7%と市場予想通りで、通常 RBA がコアとして重視している刈込平均と加重中央値の平均値は+2.8%と、刈込平均値だけみても穏やかな結果で、更には言えれば市場では今後インフレ率は全体的に小幅低下に向かうとみられていることから、RBA がすぐに利上げに向かう可能性はかなり低く、市場の反応は行き過ぎとみられる。金利市場を中心に利下げが過度に織り込まれていたこともあって、より中立的な織り込みに修正されたため豪ドルが買い戻された、と見るのが妥当だろう。

もう一つの注目材料だった英 BoE 議事要旨では、政策金利の現状維持が 9 対 0 で決定されたことが判明し、利上げ票がまだみられなかったことから、発表前に一部の期待感から上昇していたポンドは発表後に反落した。議事要旨では、「小幅利上げが景気を腰折れさせるリスクが後退した」というタカ派的な認識と「早すぎる引締めは経済をショックに対して脆弱にする」というハト派的な認識の両論併記となった。とは言え、BoE のメンバー全体としてみれば着実に利上げ支持にシフトして来ていることは明確だ。四半期インフレ報告も発表される次回 8 月会合に向けて再び早期利上げ開始期待が高まり、ポンドは持ち直していこうだろう。

この間、ドル/円は 101 円台半ばで方向感のない展開が続いた一方、ユーロ/ドルは一時 1.3455 ドルへ小幅続落となり、年初来安値更新が続いた。

なお、本日早朝発表の RBNZ 金融政策決定では、大方の予想通り政策金利 (OCR) が 25bps 引き上げられ 3.50% となったが、声明文で「より中立的な水準へ追加利上げをする前に、評価の時期を持つのが妥当」とし、(当社の想定通りに) 利上げ一服姿勢が示されたことから、NZ ドルは 0.87 ドル丁度近辺から一時 0.8609 ドルへ急落した。

## 主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.0	-0.00	-0.00	+0.00	+0.01	+0.01	-0.00	+0.2	-0.1	+0.7	+0.8
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.0	+0.00	-0.00	-0.00	-0.03	-0.02	+0.01	+0.2	+0.2	+0.8	-0.01
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.1	-0.01	-0.02	-0.00	-0.04	-0.03	+0.01	+0.0	+0.2		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.7	+0.04	+0.04	-0.00	+0.03	+0.04	+0.01	+0.2	+0.1	+0.5	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.4	+0.03	+0.02	-0.00	-0.05	-0.05	+0.01	+0.2	+0.1	+0.5	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.1	-0.01	-0.00	+0.01	-0.00	+0.01	+0.01	+0.2	+0.7	+0.5	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅 (%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：ユーロの自律的下落

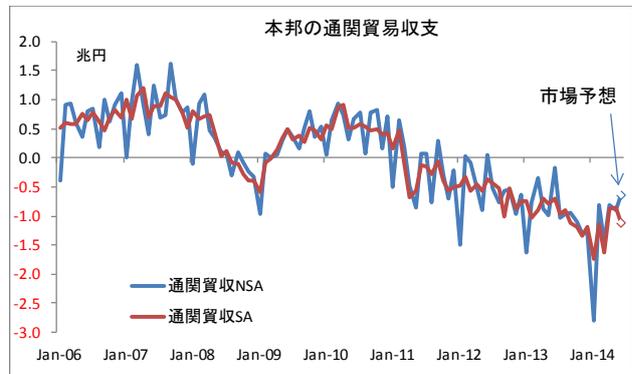
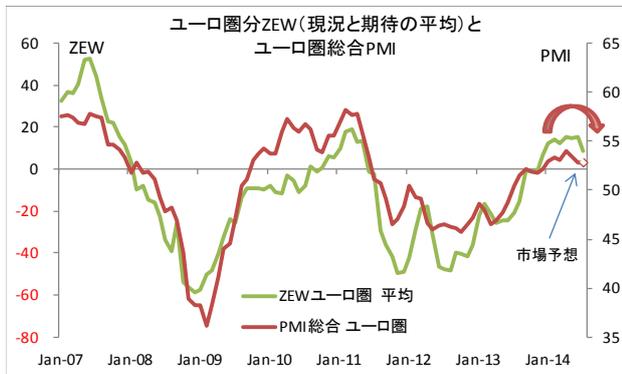
きょうの注目通貨：EUR↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
NZ6月貿易収支・NZドル	7:45	+2.85億	+1.00億	
本邦6月通関貿易収支・円	8:50	-9108億	-6492億	
同季節調整済		-8622億	-1兆1199億	
中国7月HSBC製造業PMI速報	10:45	50.7	51.0	
フランス7月PMIコンポジット	16:00	48.1	48.3	
ドイツ7月PMIコンポジット	16:30	54.0	53.8	
ユーロ圏7月PMIコンポジット	17:00	52.8	52.8	
英6月小売売上高・除く自動車・前月比	17:30	-0.5%	+0.3%	
米新規失業保険申請件数	21:30	30.2万件	30.7万件	
米6月新築住宅販売件数	23:00	50.4万件	47.5万件	

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日はユーロ圏7月分PMIが相対的に注目だ。ユーロ圏PMIは昨年初以降改善が続いていたが、今年4月にピークをつけた後、ここ数か月は小幅悪化傾向となっている。既に7月分が発表されているZEWのユーロ圏分をみると(期待と現況の平均)、7月に大きく悪化していることから(下図を参照)、今回横ばい予想となっているPMIはどちらかという下振れリスクがあり、7月入り後下落基調となっているユーロの続落に繋がるだろう。なお、ユーロ圏分より先にフランス分、ドイツ分が出るため、これらが大きく動く、ユーロ圏分の方角性を先取りしてユーロは動くことになる。

ドル/円関連では本邦通関貿易収支と米新規失業保険および新築住宅販売件数が予定されているが、いずれも余程予想から乖離しない限りは通常は相場へのインパクトは限定的だ。方向性としても、本邦貿易収支は今年1月に最大の赤字を計上した後、緩やかな赤字縮小傾向だったが、今回は季節調整前では更なる赤字縮小予想の一方、季節調整後では赤字再拡大の見込みで、方向性が読みづらい。米国の新築住宅販売も、住宅販売の大半を占める中古(既発表)は前月および市場予想を上回ったが、今回の新築分は小幅ながら減少が予想されている。このため、どちらもドル/円に強い方向性を与えにくいとみられ、101円台前半を中心としたレンジ推移が続きそうだ。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。  
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。  
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社  
 金融商品取引業者(投資助言・代理業) 関東財務局長(金商)第2733号  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641